



PRESS RELEASE

2026.1.27

【第6回知恵-1GP グランプリ受賞】 道路の未来を変える次世代ICT『M-CIM Pilot』が、インフラ維持の“負のループ”を断つ。点検・補修をワンストップで高度化するシステム。

松本建設株式会社(本社:京都府京都市、代表:松本佳之)が開発した道路点検・補修ICTシステム「M-CIM(エム・シム)」および、建機・制御アプリ「M-CIM Pilot(エム・シム パイロット)」が、この度「第6回知恵-1GP」チャレンジ部門にてグランプリを受賞いたしました。

受賞したシステムは、道路インフラの老朽化に対し、独自開発の「M-CIM」を使い、3Dスキャナーやドローン計測から高精度な3次元設計情報を生成。このデータを「M-CIM Pilot」により従来型の切削機と連携させ、ICT 建機に進化させることで、高度化・省力化を実現するシステムです。これは、道路メンテナンスにおける「負のループ(壊れてからの高額修繕、ICT 導入による事務負担増、技術承継の断絶)」を断ち切る革新的なツールです。

材料費の削減や工期短縮に加え、「勾配の入り組んだ路面を、1mm単位で最適な深さを掘る」といった熟練の職人技もゲーム画面のように分かりやすく可視化することで、若手への技術承継にも寄与します。現場・事務・経営の負担を解消し、市民の安全を守る革新的な実効性が高く評価されました。



見守る目は鋭く、直す手は素早く。測る、直す、をワンストップ。

■ 製品の特長 「3 つの革新」と具体的メリット（システム・アルゴリズムについて特許出願中）

【①現場の革新】メーカー横断の「中立データ」と直感的な UI デザイン

マルチベンダー対応：建機メーカーを問わず、大型・小型機間でのシームレスなデータ連携を実現。「この建機しか使えない」という制約をなくし、建機を使い分ける自由をつくりました。

ゲーミフィケーション：道路切削の進捗をパックマン風のインターフェースで可視化。削り過ぎ・削り残しを、グラデーション色で判別できるため若手でも即戦力化が可能です。またベテラン職人の操作ログデータは技術継承に役立ちます。

機器取付けを簡略化：衛星測位アンテナ設置を簡略化し、現場到着後すぐに心地よい施工を開始できます。（システム取り付け工程・約 1 日→約 1 時間～数十分）



【②事務・経営の革新】事務工数の削減と高い収益性の両立

帳票自動作成：施工ログから工事報告書を自動生成。現場の DX が事務負担増に繋がる「労務スライド」をなくします。

遠隔臨場機能：ボタン1つでネット会議に連動する機能を標準装備。現場と事務所が同じ動作確認画面を見落としなく共有するので安全性が向上し、移動時間を削減します。

使い易い価格：中小建設業も導入しやすい価格設定により、ICT コストが本来の修繕予算を圧迫する事態を防ぎます。

【③社会の革新】持続可能なインフラ維持と多様な雇用

市民に対する安全性配慮：損傷予兆の可視化により、事故を未然に防ぐ「壊れる前に直す」メンテナンスを実現。工事にかかる工数を削減する為、温室効果ガス削減にも寄与。

グローバル&ソーシャル展開：ベトナム支社でのデータ処理や、国内での就労支援施設との連携により、人口減少下での技術承継と社会的な就労機会の創出を両立しています。

■ 代表メッセージ

「20年以上、道路の現場と向き合う中で、陥没や事故の繰り返しを誰よりも見てきました。高額なICT導入が負担となってインフラ維持の質を阻害しては本末転倒です。私達は、現場がスムーズに動き、事務もスムーズに完結し、予算が正しく道路修繕へ充てられる循環をデザインしました。

もう『壊れてから直す』時代を終わらせ、好循環の時代を迎える。私達は、道路からのアプローチによって、皆様の好循環を支えます。」

■ 知恵-1 GPについて

知恵-1 GP(グランプリ)は、京都の特性と自社の強みを「知恵」で融合し新たな顧客創造を目指すビジネスプランを評価するものです。村田恒夫氏（株式会社村田製作所 相談役）を審査委員長に、独自の優位性や社会性、事業の実現性が厳正に審査されました。そこで弊社のプランは「知恵ビジネス」の基準を高く満たすものとして選出いただきました。

■ 今後の予定

受賞プラン発表会・授賞式：令和8年3月3日(火) 13:00～17:00 リーガロイヤルホテル京都にて開催

技術の詳細は、弊社ウェブサイトにて紹介しています。URL: hosokoji.com

